

「社会奉仕を義務付ける制度の導入の可否」の検討事項

(注) 以下の検討事項は、これまでの議論等を踏まえ、当面考えられるものを挙げたものであり、もとより検討の範囲をこれに限る趣旨のものではない。

1 考えられる制度の法的位置付け

- ① 独立の刑罰
- ② 短期自由刑の代替刑
- ③ 罰金刑の代替執行手段
- ④ 起訴猶予・執行猶予・宣告猶予の条件
- ⑤ 保護観察の遵守事項とするなど、保護観察の一内容とするもの

2 上記1の各法的位置付けの可否を検討するに当たり考慮すべきと考えられる事項

① 制度の目的

- (例)
- ・ 社会への償い
 - ・ 制裁
 - ・ 対象者の改善更生・社会復帰促進

② 対象者

- (例)
- ・ どのような者を対象とすべきか
 - ・ 例えば、罪名や少年か否か等により対象を限定すべきか

③ 対象者の同意の可否

④ 作業の内容・時間数等

⑤ 実施・監督体制の在り方

- (例)
- ・ どのような機関・団体が作業の実施・監督を担うか
 - ・ 実施・監督に当たり留意すべき事項は何か

⑥ 制度の実効性を担保するための方策

- (例)
- ・ 義務違反があった場合の措置をどうするか
 - ・ 実施・監督の実効性の担保手段が考えられるか